

ホウシャガメ（マダガスカルホシガメ）と日本のリクガメ輸入について



トラフィック イーストアジア ジャパン (略称：トラフィックジャパン)作成
下記の内容を転載する際には、トラフィックジャパンまでご一報ください。

マニアに人気のホウシャガメ

学名：*Geochelone radiata*

IUCNレッドリスト
カテゴリー(2004)

：危急種(VU)

- ・マダガスカル島南部の乾燥した森林に生息する、マダガスカル固有のリクガメの仲間。
- ・マダガスカルホシガメとも呼ばれる。
- ・放射状の甲羅模様が美しく、マニアの間で人気。



ホウシャガメ©トラフィックジャパン

日本はリクガメの消費大国

日本のリクガメ輸入

トラフィックがおこなった2002年のペットショップでの市場調査によれば、世界に生息する約300種(289種)のカメのうちの3分の2にあたる約200種(199種)の淡水ガメおよびリクガメが販売されていた。

輸入量の増加からも日本における需要の高さが伺える。トラフィックの調査から得た数字によると、日本のリクガメ輸入量は1989年から1998年の10年間でおよそ16倍に増加している。

世界のカメ289種のうち63%は絶滅のおそれがあるとされている。日本の高い需要(消費)が、ある種のカメの存続をおびやかす一因となりかねない。

ホウシャガメの取引規制

国際取引

ホウシャガメはワシントン条約で、1975年からもっとも規制の厳しい附属書Iに掲載されており、商業的な国際取引は禁止されている。

国内の法律：

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」では、ワシントン条約の附属書Iに掲載されている種を国際希少野生動植物種として指定。これらの該当種については、譲渡、譲受等は原則的に禁止している。

日本での販売

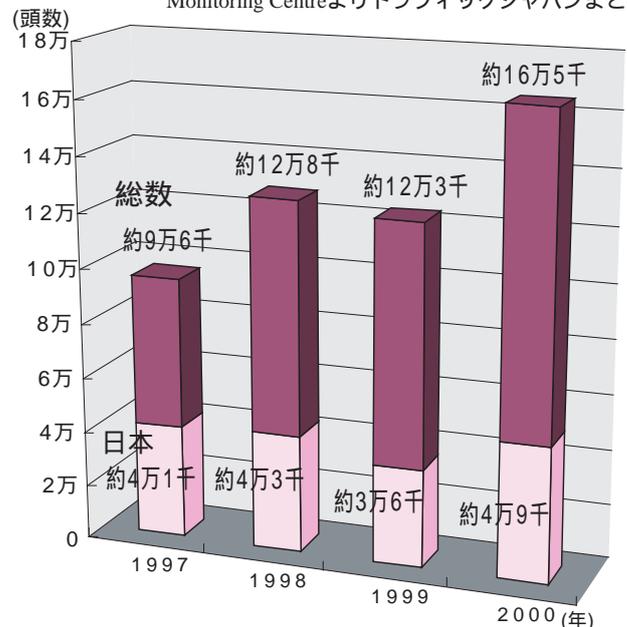
日本での無登録の販売は違法なため、市場でみられることはまずないが、時々ネットオークションなどで販売されていることがある。

ホウシャガメ関連の違法取引事例

トラフィックの調べによれば、1999年から2003年の間に、ホウシャガメの密輸事件が成田税関や名古屋税関などで少なくとも6件あった。また1999年にはホウシャガメを無許可で販売していたとしてペットショップが摘発されている。2003年には動物園からホウシャガメが盗まれ、転売される事件も起きている。

世界の生きたリクガメの輸入量(頭)

出典：UNEP-WCMC CITES Trade Database, Wildlife Conservation Monitoring Centreよりトラフィックジャパンまとめ



日本は1996年当時、約3万頭のリクガメを輸入。これは世界の輸入量の54.5%を占めていた。

1997～2000年の4年間の輸入量を総計すると、3割以上を日本が輸入しており、その輸入量は世界第1位である。

『日本における淡水ガメ・リクガメの市場調査』のレポートは
サイト上でダウンロードできます。

<http://www.trafficj.org/publication/TJ-livetortoise-2005.htm>